

チームビルディングについて

以前に百舌鳥FC説明会で紹介させていただいた高学年チームの育成方針で「コミュニケーションの質を高める」「目標の作成」「他人事にしない、自分事にする」等のプランを掲げました。そこに至るまでに参考にした本があります。

今いるメンバーで「大金星」を挙げるチームの法則
～『ジャイアントキリングの流儀』～

この本を通して私はチームビルディングというのを知り、チームの成長には法則があるということを知りました。

私はサッカーを通して自立した選手を育てることを常に考えてきました。

しかしその方法を試行錯誤していました。

この本に出会い、本当の意味での自立、サッカーを通しての選手の成長というのを知り、育成プランを実行することに至りました。

このブログを通じてそのプロセスや今後の展望を保護者の皆様をはじめ、百舌鳥FCに関わるサポーターの皆様にご説明をさせていただきたいと思います。

グループとチームの違い

その中でグループとチームの違いについて思い知らされました。

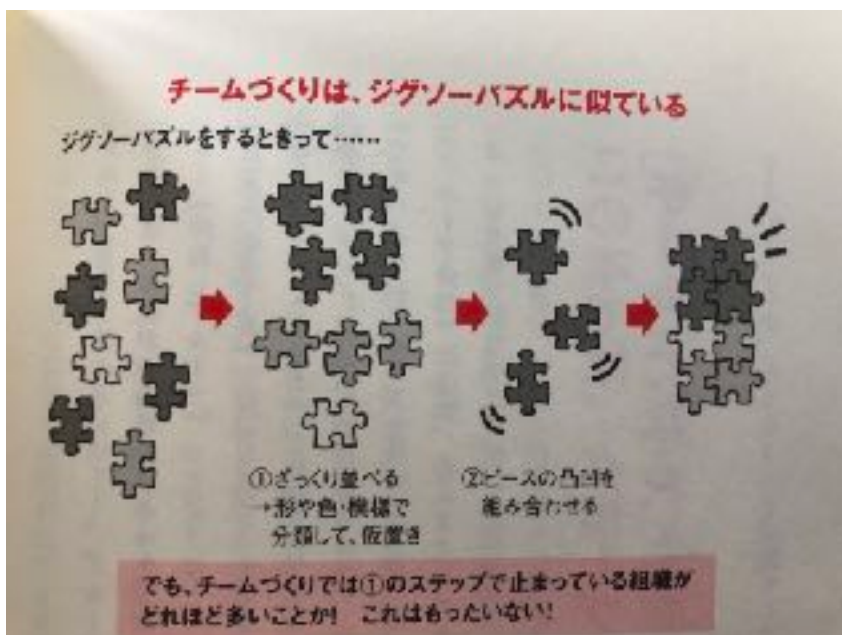
グループとチームの違い

グループ・・・個人の集まり

チーム・・・個人が集まった一つの集合体

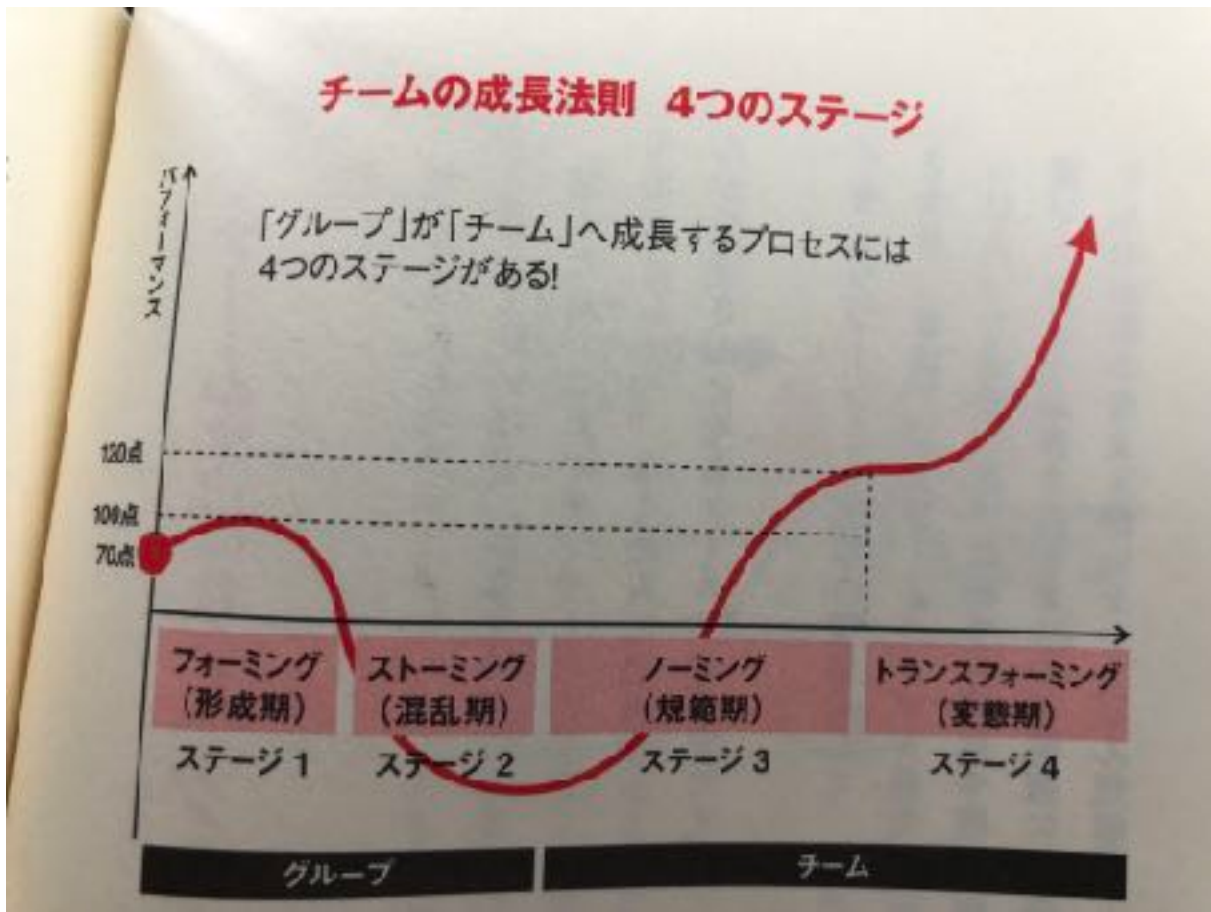
グループは1人1人バラバラだが、チームは一つの大きな生き物というイメージ。

ジグソーパズルで説明するとイメージがしやすいと思いますので下の図を参照してください。



そしてチーム作りには4つのステージがあると考えられ、それぞれ4つのステージのあるときを境にグループからチームへと成長していきます。

一つ一つこの図を見ながら説明を読んでもいただけるとお分かりいただけると思います。



①フォーミング(形成期)グループ

パズルの袋をあけて、色分け、形分けが済んだ状態。(仮置き状態)

サッカーのチームにおいてはある程度サッカーが楽しめていて、かつ不満も起こらないごくごく平和な状態。

しかし、チームとしてはなぜか成長せず、勝ったり負けたりする。

一見問題のないチームに見えるが問題が表面化していない、または気づかないうちに黙認している状態。

強いリーダーが主導権を握り、それに従って動いているだけで意見や不満など何も言わず従っているだけの状態。

②ストーミング(混乱期)グループとチームの境

仮置き状態のパズルから一つ一つパズルを組み合わせていく為、テーブルの上が最も散らかっている状態。

サッカーのチームにおいては何をやっても上手くいかない時期。

今まで勝てた相手にすら負けてしまう。選手の不満やストレスも溜まり、いわゆる雰囲気の良い状態。

下手をしてしまうとチーム解散の危機へと繋がってしまう。

それぞれの考えや意見を述べて争いや揉め事が起こる時期。

③ノーミング(規範期)チームへ

組み合わせあったピースが大きな塊になってきている状態。

パズルの完成図が見えてきている状態。

サッカーのチームにおいては選手自身が成長を実感できるような小さな成功体験が生まれてくる。

そしてそれを繰り返すうちにチームのスタイル（行動規範）が築かれていく。

ビジョン、メンバーの役割と責任範囲が明確になっていき、「自分はチームのために何ができるか」が見えてくる。

④トランスフォーミング(変態期)完成されたチーム

バラバラだったピースが一枚の絵に完成している状態。

サッカーのチームにおいてはそれぞれ全ての選手が自身で考え、それを他の選手と阿吽の呼吸で連携し、一つの生き物のように動いている状態。

以上の4つのステージがあります。

多くのチームが①フォーミングで止まってしまうことが多いのです。なぜなら②ストーミングの状態になることが悪いことだと捉え、チームリーダー、コーチなどが①へ戻そうとしてしまいます。

コーチの立場である私自身、チームが悪い状態に陥った時、選手の力で解決するのではなく、自分で取り仕切って取り繕おうとしてしまい、②のストーミングへ向かう機会を失ってしまいました。

チームの雰囲気をよくしようという方向ばかり気にしてしまっていたり、揉め事が起こらないように細かなルールを定めたり、負けたらコーチ自身の力だけで立て直そうとしてしまったりしてしまっていました。つまり、①フォーミングから②ストーミングへ陥ったとき、以前のように戻そうとしてしまい、②ストーミングの方向へ向かうことを恐れていたことに気づきました。

これではチームは成長せず、一進一退のまま足踏みをしている状態でした。

そこで②ストーミングを乗り越えることに着手するため、今回の育成プランにたどり着きました。

②ストーミングを乗り越えるのに必要なこと

- ・向かうべき方向を持つ(目標) 目標：『公式戦優勝』『強いチームに勝つ』

以前の百舌鳥FC Aチームに足りなかった大きな一つで、選手同士での共通のチームの目標がありませんでした。チームが向かうべき方向がないということはパズルの完成図を知らないままパズルを組み立てるようなものでした。

そこで百舌鳥FC Aチームでは個々の選手に個人の目標を考えてもらい、その後キャプテン、副キャプテンを中心にチーム目標を考え、『公式戦優勝』『強いチームに勝つ』という目標を6月頭に掲げました。

4月から取り組みこの目標を作るプロセスに2ヶ月をかけ、全体の共通認識とすることができたことでチームとしての一体感と個々の選手の中での責任が生まれました。目標を達成した状態にふさわしい行動とは何か、それを選手自ら考え、コーチはその方向に向かって教えることができるようになり、サッカーへの集中力が大幅に上がりました。

また、チームを牽引するべきキャプテン・副キャプテンに責任感が生まれ、チームを引っ張る姿勢が見られ、選手間でも一目置かれる存在になってきています。

この目標に辿り着けた大きな要因として合宿があったと考えています。合宿中から目標についての話し合いもたくさんすることができ、その重要性についても伝えることができました。また、合宿で百舌鳥FCでサッカーをすることの根源的な楽しさに選手が触れたこと、強い仲間意識が芽生えたこと、JSLリーグでの大敗の経験などサッカーに対する感情、自分達はどうなりたいのかを強く刺激したのだと考えています。

・コミュニケーションの質を上げる

試合中やその前後、百舌鳥FC Aチームは以前ならサッカー以外の会話がとても多かったように思います。また、試合中はとても静かで、コーチの声がうるさく聞こえるくらい選手からの会話が聞こえることがありませんでした。ベンチに控えているメンバーの声は以前なら試合と関係のない話をしていたり、砂遊びしてしまったりしていました。試合後、選手間でのダメ出しは本人に伝えることもなくただの愚痴になってしまっていました。

そこで発言のラインを下げることを提案しました。②のストーミングを乗り越えるためにコミュニケーションの量から改善し、思ったことを言うことを奨励しました。サッカーに関することであればダメ出しもオッケー、どう動いてほしいか、どういうプレーがしたかったのかなど、練習や試合に活気生まれ、厳しい声も聞こえてくるようになりました。コーチとしては厳しい声があった後や私自身が言った後などにはフォローを忘れないようにすることを心がけています。また、現在では私の考えたポジションに異論を唱える選手も増えてきましたが、それも歓迎しています。目標に沿った内容であるか、チームのためになるのかなど、理由を聞きお互い納得できるのであれば試してみる。それで選手自身が考え、トライ&エラーを繰り返すことで更なるベストを考え、発言するきっかけになると考えているからです。

・他人事にしない、自分事にする

ここが最も重要なテーマであると考えています。サッカーはボールを足で扱うため、とてもミスの多いスポーツです。個人個人でミスを減らすことを考えるのはもちろんですが、仲間のミスに対してそれは自分は関係ないといったことは無いということです。他人のミスはその人のせいだけではなくチームのミスです。ある1人の選手のミスを1人で抱え込んでしまったらその選手は積極的なプレーができなくなってしまいます。チームから個人攻撃を受けてしまったとしたらその選手は耐えられません。目標である『公式戦優勝』『強いチームに勝つ』を叶えるためには積極的に難しいプレーを選択していくことが必須になります。

現在の百舌鳥FC Aチームでは少しずつこの考えが浸透してきています。

「〇〇が上がるなら俺が〇〇のフォローするわ」などのチーム全体の動きのバランスを取るための声かけ、いいプレーに対しての「ナイスプレー」の声、選手間での練習での教え合いなど、他人から生まれる問題や賞賛を自分のこととして捉える行動が見られるようになってきています。その為の仕掛けに誰がどのプレーが上手くて誰がどのプレーが苦手かを明確に伝えるようにしました。

そうすると選手は自然にフォローしあったり、教えあったりする環境が生まれました。

それぞれの時期に適切な指導とやるべき課題があり、6月中旬現在での百舌鳥FC Aチームは②ストーミングから脱出し、③ノーミングへ移行していきつつある段階にきています。

つまり、いよいよグループから脱却しチームに生まれ変わろうとしています。

ただ、まだ②ストーミングへの逆戻りしてしまう可能性がある脆いチームです。

先日の中央リーグでの勝利で成功体験を得たチームですが、まだまだ生まれたてのチームです。逆戻りしてしまう種として現在チームに取り巻く環境は格下の相手との点差とレギュラーメンバーが固定化されすぎてしまっている現状があります。

格下の相手との対戦の時に予想されたスコア以上の結果が出ていない現状があり、その時の選手の反応は様々です。

「勝ててよかった」と思っている顔、「この程度の相手なら楽勝」と思っている顔、「点をたくさん取れなくて悔しい」と思っている顔など様々です。

また、ベンチにいたことが多いメンバーも何となくベンチでも仕方ないと考えてしまっている選手がいるのも事実です。現状に満足せず、試合に出て、自分の存在価値をチームに証明するという強い意志が不可欠です。

③ノーミングへと進もうとするチームならこの表情や姿勢はいただけないというのがコーチの目線から感じることです。

③ノーミングへの移行にはチーム全体が目標を達成するためのビジョンの共有が不可欠です。このチームはどうやって優勝するのか、どんな戦い方で勝つのか、強いチームに勝った時観にきてくれている人たちはどんな顔をするのかなどのビジョンをチーム全体で共有できることが必要になります。

そしてプレーの面でもお互いの凸凹を理解し、合致させる能力、つまりお互いに対して気の利いたプレーを予測し合うことができるようになれば目標までの道のりが理解できてきます。

そのためにこれからの課題は選手間でのチームの行動規範（スタイル）の共有です。

選手達の中でこのチームはどういった方法で勝つのか、どういったことを大切にするのかなど、チーム内での価値基準に沿った行動規範が必要になります。

ただ単に勝ったことに対する成功体験だけではなく、どういった内容で勝つのかをよりこだわっていく過程が③ノーミングです。②のストーミングへの逆戻りをしないためにただ勝つだけではなくどう勝つかにこだわり常にチームが前に向ける行動規範（スタイル）を選手みんなで作ることをこれから取り組んでまいります。

百舌鳥FCに関わる全ての方々に選手達の成長、チームの成長を心から楽しんでいただけることを願っています。

選手達は本当に勝ちたがっています。目標である『公式戦優勝』『強いチームに勝つ』ということに全力で取り組んでいます。

そんな選手達の背中を近くで見守ってあげて欲しいと思っています。

そして、選手達と一緒に目標を達成し、一緒に喜びを共有できる日が必ず来ると信じています。

最後に

これだけ本格的なチームビルディングに取り組めるのは現在の6年生がサッカーを好きでいてくれるから、勝ちたがっているからこそできる挑戦であると思っています。

選手のみながこれからもサッカーを好きでいてくれることが何よりも大切です。同年代で遊ぶ楽しさ、ルールの下で一生懸命遊ぶ楽しさを伝え、勝利至上主義にならないサッカー、自立したサッカー選手を育てるということを忘れないでこれからも指導に邁進していきたいと思っています。

そして、支えてくださっている保護者の皆様の理解と協力に感謝の気持ちを忘れずチャレンジをして参りたいと思います。